



県指定文化財

うるしきょうづか

漆経塚出土品

美杉ふるさと資料館に、美杉町下多気にある漆経塚から出土した経筒、銅鏡などが展示されています。

経塚は、仏教の経典を後世に伝えるため、あるいは極楽往生や追善供養の願いを込めて、経典などを土中に埋納したもので、善行を積む行為として平安時代中ごろから造営が始まったとされています。

漆経塚の出土品には、銅製や陶製の経筒をはじめ、きょうかんじく経巻軸、はくじこうす銅鏡、とうす白磁合子、刀子、銅銭などがあり、鎌倉時代初期に埋納されたものと考えられています。これらは、昭和9年に山王権現社跡南の「御壺山」みつぼやまと呼ばれるところから掘り出されたもので、出土時の状況や経塚の全容は明らかではないものの、当時の新聞にも経筒や銅鏡、法華経、刀などの発見が報じられています。

出土品には願主や願文などを記したものがいないため、山深い地に経塚が造営された事情を伺い知ることはできませんが、これらには、どのような願いが託されていたのでしょうか。

(「広報津」平成22年7月1日号)

